

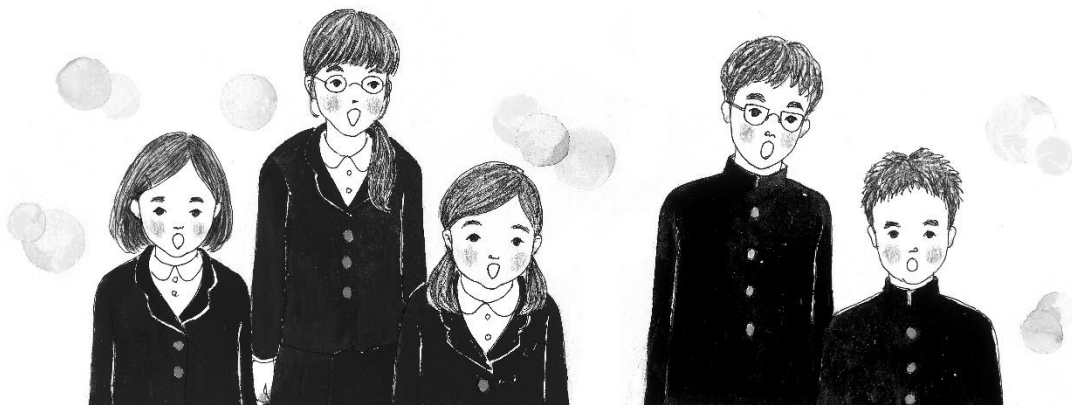
第33回『初めての伴奏』

第33回目の道徳では、合唱コンクールの練習をする生徒たちの物語を通して、お互いの役割や能力を尊重し、協力し合うことの大切さについて考えました。理子は、校内合唱コンクールのピアノ伴奏者に立候補しました。一学年上の姉がピアノ伴奏者に決まり、父と母が「志保は、一年のときも選ばれてすごい。」と褒めているのを聞いたからです。しかし理子は、伴奏をたびたび間違え、周りの生徒に非難されます。皆の歌声もまとまらず、指揮者の陸は、このままでは聴きに来てくれる人に失礼だと言います。その言葉に「ピアノの伴奏は、自分だけのものではなくて、クラス全員の歌とセットなのだ」と気づかされた理子は、「合唱をよいものにするために、まず、自分が変わらなければ」と、ピアノの練習に励みます。理子のがんばる姿に、クラスのみんかも「クラスのためにがんばろう」と思い始めました。

みんなの意見

クラス全体で何かに取り組むときに大切なのは、どんなことだろう。

- 「ここはこうした方が良い」とか意見を出し合ったり、失敗してもその人を責めないで、一人一人が一生懸命取り組むこと。
- 上手い下手関係なく、一人一人が全力で取り組むことに意味があって、一人一人が全力で取り組んだとき、初めてクラスの最高の発表ができる。
- みんなのことを考えて行動すること。自分のことだけでなく、他の人のことも考えること。
- みんなが頑張っているのに何人か頑張らない人がいると、クラスもまとまらないから、クラス全体で取り組む時にはみんなの頑張ろうとしている気持ちを踏みにじってはいけないと思う。



**クラスで何かを成し遂げるときに
どんなことを大切にしていきたい？**